

お便りをお待ちしています



このコーナーは、皆さんの意見や地域の問題をお届けしています。あなたの情報を、ぜひ広報広聴課へお寄せください。

☎55-2700 ☎51-1456

✉kouhou@div.city.fuji.shizuoka.jp

まちかど ネットワーク

火ひと

市民に愛されるコミュニティFM局を目指し、情報を発信する

佐野智恵子さん

(今泉)

地

域の話題を発信しているラジオ局「Radio-f」^{ラジオエフ}。開局から半年がたちますが、お聞きになった皆さんも多いかと思いきす。佐野さんはそこで、ニュースや天気予報を読んだり、編集を手がけたりと、制作スタッフとして働いています。

ラジオの仕事に携わるようになったきっかけは阪神・淡路大震災。当時、大学生だった佐野さんは、神戸に住んでいました。「住んでいたアパートは傾き、やつの思いで外に出ました。被災直後は通信手段がなく、何がどうなったのかわかりませんでした。不安でたまらなかつた私に情報を与えてくれたのが、車



▲声入れから編集まで手がける佐野さん



から流れてくるラジオだったんです。そのとき、ラジオに助けられたような感じがしました。それまでラジオを聞くことはありませんでしたが、被災後は生活の中でいつもラジオが流れるようになりました」と語ります。佐野さんは、以前、関東圏のラジオ局などでアナウンサーとして活躍していました。しかし、家族や知人に声を届けられる場所で仕事をしたいと考え、「Radio-f」に入社し、開局前から奔走してきました。「皆さんから『ラジオを聞いているよ』と声をかけてもらうことが、こんなにもうれしいとは思いませんでした。これまでも声援をいただいたことはありましたが、それとは比べ物にならないくらいうれしいです。これからラジオを通して、皆さんの生活に役立つ情報を、発信していきたいですね」と輝く笑顔で話してくれました。

ズームアップ

東海道の宿場町だった歴史を生かし、街の魅力を伝える

吉原本宿（鯛屋旅館）

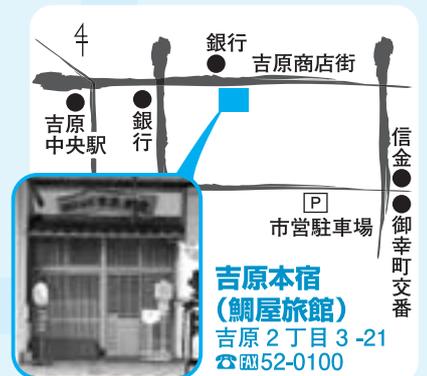
吉

原の街中の活性化を目指し、ことし3月にオープンした「吉原本宿」。創業320年の歴史を持つ、鯛屋旅館を改修して完成しました。

施設内に設置された歴史資料館には、吉原の昔と今を比較できる写真や東海道五十三次の絵などが展示され、常駐のボランティアが吉原の歴史を説明してくれます。そのほかにも、「一店逸品」をテーマにし、吉原地区の商店が考案した20以上の商品を販売しています。食堂では手打ちそばを食べることもできます。吉原本宿の営業時間は11時～16時で、定休日は水曜日です。入場は無料で、だれでも気軽に



▲「一店逸品」の商品を販売するコーナー



立ち寄れる休憩所としての役割も担っています。吉原本宿を運営する「タウンマネージメント吉原」会長の内田寛さんは「東海道の宿場町として栄えた吉原宿の歴史を生かし、街にぎわいを取り戻そうと、吉原本宿ができました。今まで、東海道をウォーキングする人たちなどは、吉原商店街を通り過ぎるだけでしたが、これからはここに立ち寄ってもらい、より多くの人に吉原を知っていただきたいです。そのためには、まず市民の皆さんに足を運んでいただきたいですね。今後は、歴史講座やミニ寄席、そば打ち体験講座なども計画しています」と話してくれました。また、歴史資料館の展示は常設ではなく、吉原祇園祭などのテーマに合わせて変えていくことも検討中だそうです。これを機会に、皆さんも吉原宿の歴史にふれてみませんか。